

定期予防接種の対象年齢と接種間隔

◎定期予防接種名と標準的な接種年齢などを一覧にしました。

医療機関に相談しながら計画的に接種をすすめていきましょう。

◎対象年齢内は無料<<未満とは、誕生日前日までです>>

予防接種の種類 Vaccine	ワクチンの種類	対象年齢	標準的な接種年齢 (おすすめの接種時期)	接種回数・間隔・その他			通知時間
インフルエンザ菌b型 (ヒブ Hib) Haemophilus type b	不活化	生後2か月から5歳未満	生後2か月から生後7か月未満	初回	3回	27日から56日の間隔で接種	
			3回目終了後、7か月から13か月の間	追加	1回	3回目終了後、7か月から13か月の間に接種しましょう。	
小児肺炎球菌 Streptococcus pneumoniae	不活化	生後2か月から5歳未満	生後2か月から生後7か月未満	初回	3回	27日以上の間隔をおいて接種しましょう。	
			3回目終了後、60日以上	追加	1回	3回目終了後、60日以上で1歳以上の時に接種しましょう。	
B型肝炎 Viral Hepatitis typeB	不活化	1歳未満	生後2か月から生後9か月未満		3回	27日以上の間隔で2回接種。 1回目から139日以上の間隔で3回目接種	
ロタウイルス Rotavirus 経口投与(飲む) ワクチン	生	生後6週から24週(6か月)未満	生後2か月から27日以上の間隔をあけて		2回	出生14週6日までに開始する	
		出生6週から32週(8か月)未満	生後2か月から27日以上の間隔をあけて		3回	出生14週6日までに開始する	
ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ (四種混合) Diphtheria・Pertussis・Tetanus・Polio	不活化	生後2か月から7歳6か月未満	生後2か月から1歳	1期初回	3回	20日から56日までの間隔をおいて3回接種しましょう。	
			3回目終了後、12か月から18か月の間	1期追加	1回	3回目終了後、12か月から18か月の間に接種しましょう。	
BCG(結核)	生	1歳未満	生後5か月から8か月未満		1回	接種時期が短いので早めに接種しましょう。	生後1か月頃
麻疹(はしか)・風疹 Measles・Rubella	生	1歳から2歳未満	1歳	1期	1回	1歳の誕生日がきたらなるべく早めに接種しましょう。	
麻疹(はしか)・風疹 Measles・Rubella	生	5歳から7歳未満	小学校入学前年度(4月2日から4月1日生の児)	2期	1回	小学校入学前の「就学児の健康診断」までに2回目を忘れずに接種しましょう。4月1日から3月31日までの1年間	
水痘(水ぼうそう) Varicella	生	1歳から3歳未満	1歳		2回	1歳の誕生日がきたらなるべく早めに接種しましょう。	
日本脳炎 Japanese Encephalitis	不活化	生後6か月から7歳6か月未満	3歳から4歳	1期初回	2回	6日から28日までの間隔をおいて接種しましょう。	
			4歳から5歳 ※1期2回目後、おおむね1年後	1期追加	1回	2回目終了後、12か月から18か月の間に接種しましょう。	
日本脳炎 Japanese Encephalitis	不活化	9歳から13歳未満	9歳から10歳	2期	1回	9歳の誕生日がきたらなるべく早めに接種しましょう。	
ジフテリア・破傷風(二種混合) Diphtheria・Tetanus	不活化	11歳から13歳未満	11歳から12歳	2期	1回	11歳の誕生日がきたらなるべく早めに接種しましょう。	
ヒトパピローマウイルス (HPV)(子宮頸がん) Human Papilloma	不活化	小学校6年生から高校1年生相当年齢の女子	中学1年生		3回	決められた接種間隔を守りましょう。	